

下呂市の医療を支えるのは下呂市民です 広報げろ 2009.10

下呂市の医療を支えるのは下呂市民です

看護師が足りない

下呂市のみなさん。ご本人やご家族が病気やけがなどで入院されますと医師や看護師をはじめとして様々な職種の人たちがそれぞれの技術を発揮してお世話しています。しかし、下呂市においては医療に携わる人材がたりない。全国的に病院勤務医が足りないことは明らかで大きな問題となっていますが、病院で直接患者をお世話する看護師や看護補助者が足りないために病院の維持をも脅かすようになっていきます。看護師不足は都市でも地方でも深刻なので、下呂市においてもとても市外から来ていただけるような状況ではありません。地域在住の人材に頼るしかない状態なのです。下呂市の医療は下呂市民が支えるしかないのです。もちろん勤務環境や対偶の面での改善も重要で最低限、働きやすい病院の建設が急務となっています。

看護補助者が足りない

また現在看護師は本来の看護業務以外の事務的作業や雑務に追われています。これらの仕事は資格の必要のない看護補助者で十分に間に合うものですがこの看護補助者も足りない。このため金山病院では正規、パートにかかわらず看護補助者も募集しています。病院には下呂市民の皆さんでできる仕事がたくさんあります。ぜひ病院に市民の皆さんの力をお貸してください。

高校生の皆さんへ

時節柄、進学や就職の準備に追われている方も多いと思います。そのような中で皆さんが生活しておられる下呂市では入院患者、在宅患者を支える医療スタッフが足りません。人材不足は全国的なのでこの人材を下呂市外に頼ることはできません。下呂市の医療を支えるためには皆さんの力が必要です。この8月には看護師志望の7人の方々に体験学習として病院の仕事のほんの一端を経験していただきましたが、若い人たちの熱意を感じました。医療関係の仕事は大変やりがいのある仕事だと思います。進路の選択に際して看護専門学校や看護大学など医療関係職を考えていただければ幸いです。現在下呂市では医学生に対して奨学金を提供していますが下呂市立金山病院では、将来看護師として金山病院で働く意志のある方々に対して奨学金制度を検討しています。下呂市立金山病院は下呂市南部の救急医療を担う第一線病院として若い力を求めています。皆さん、一緒に下呂市の医療を支えませんか。

下呂市立金山病院 院長 古田智彦